

インパルスには自分の力を最大限に引き出してくれる環境がある

木下統之

WR #22

パナソニック株式会社
ハウジングシステム事業部



パナソニックインパルスの選手たちは、仕事とフットボールの両立に取り組んでいる。言葉にすることは簡単だが、どちらも高いレベルで実現するためには、努力と工夫が必要だ。外壁や雨樋、宅配ボックス等の営業企画を行うハウジングシステム事業部に勤務するWR木下統之(関西大)は、名古屋、三重、金沢など中部エリアを担当しているため出張がとても多い。しかし、練習はもちろん、練習日以外のトレーニングも怠らず、主力の座を勝ち取った存在だ。

本代表の選考練習に参加した時、当時インパルスのコーチだった下川真司さんに褒めていただいたのがきっかけでした。

最初は体も小さい自分がXリーグの強豪チームで通用するのかわからない不安がありました。実際、初めてインパルスの練習を見た時、自分よりも大きな先輩レシーバーたちが、見たこともないような動きをしているのを目の当たりにして「これはエライ所に来てしまった」と、思いました。

一方で、大学では2年生の時からずっと主力でプレーしてきましたので、社会人になっても仕事さえ頑張れば、自然と両立できると考えていました。

しかし、1年目はほとんど出場機会を得ることができませんでした。この年にインパルスはライスボウルを制覇したのですが、チームメイトの喜んでる顔を見ながら、ただサイドラインに立っ

ただで何も貢献できなかった私は、悔しさの方が大きかったのを今でもはっきりと覚えています。

仕事だけでなく選手としても努力して成長しなければ出場機会が得られない。そう自覚して以来、まずはウエイトトレーニングに力を入れました。

当時は外廻りビジネスユニット営業企画部で九州を担当、今は中部地方を担当しているため、とても出張が多い業務に就いています。その中でトレーニングの時間を捻出するために、会社の近くに住んで通勤時間を削りました。また、出張で朝早く出発しなければならぬ日の前日が練習日の時には、いつもアフター練習で行っている内容を練習開始前に行っています。

最初は「しんどいな」と思ったこともありますが、それでも負けずに続けていけば、両立できる体力がついてきます。出張時、勤務時間

外の移動時間にプロテインなどのサプリメントを摂ったり、練習や試合の映像を見て研究をしたりできるのは、他のチームメイトよりも恵まれているかもしれません(笑)

会社の敷地内にミーティングルームとトレーニングルームを併設したクラブハウスと練習フィールドが備わっていたり、トレーニングを指導してくれるトレーナーやストレンジスコーチの皆さんが私たち選手のサポートをしてくれたり、インパルスには恵まれた環境が用意されています。何よりも、ビジネスとフットボールを高いレベルで両立するというチームの志が、自分が持っている可能性を最大限に引き出してくれると感じています。

現在は在宅勤務のため出張がない分、フットボールのための時間を多くとることができています。選手としてさらに成長するチャンスだと、前向きに取り組んでいます。

小学校1年生から高校3年生まで、野球に取り組んでいました。しかし、凄い選手と自分との差を感じ、大学では何か違うスポーツに真剣に取り組んでみようと思っていた時に先輩に勧誘されてフットボールを始めました。

インパルスとの出会いは大学日



Muneyuki Kinoshita

きのした・むねゆき。1992年7月生まれ。小学1年生の時から神戸市立葺合高校時代まで野球に取り組んだ。ポジションは主に外野手。関西大学でフットボールをはじめ、2年時からWR/RETとして活躍。大学4年時、2014年学生日本代表として第1回大学世界選手権に出場。2015年パナソニック株式会社ライフソリューションズ社に入社しインパルスに入部



IMPULSE

パナソニック インパルス 検索

panasonic.co.jp/ls/go-go-impulse



Facebook
www.facebook.com/Panasonic.Impulse

Twitter
@gogo_impulse